

はじめに

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
障害者スポーツに関する調査研究担当理事
浅見 俊雄

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）は 2006（平成 18）年 11 月に設立され、2007（平成 19）年度から事業を開始した財団で、アスリート、スポーツ医・科学の研究者など、スポーツの分野で世界に羽ばたこうとチャレンジしている人材に対する助成事業を中心に、スポーツの振興・発展に寄与する事業を展開している。さらに 2012（平成 24）年度から新たに財団独自のプロジェクト研究を行うこととなり、その一つとして障害者スポーツ、特にパラリンピック等の世界大会を目指している障害者アスリートの育成・強化の環境についての現状調査を実施することとなった。

初年度（2012（平成 24 年））には、大学、特に体育学、スポーツ科学、健康科学等の専門学部、学科を持ち、これまで健常者のアスリートの育成・強化や、そのための指導者育成、及び研究と研究者養成に実績をあげられてきた大学を対象として、障害者アスリートに関してはそうした教育、研究の環境がどのような状況にあるのかを調査・分析して報告書を作成した。

本年度は、2004 年以降の夏季、冬季パラリンピックに出場した競技者を対象に、競技環境や社会的、経済的な環境について調査する「パラリンピアンへのスポーツキャリアに関する調査」、およびこれらの大会に参加して競技者を直接サポートした指導者について、同様に「パラリンピック指導者の現状に関する調査」を実施した。

またパラリンピックの各競技種目の日本における統括団体について、その組織の現状分析に取り掛かり、本年度も継続してアンケートによる調査と、いくつかの団体には面接によるインタビュー調査も実施して、その現状について分析を行った。

本書は上記のパラリンピックの競技団体調査と、パラリンピアン、およびその指導者についての調査の分析結果の 3 編をまとめて、「我が国のパラリンピアンを取り巻くスポーツ環境調査」というタイトルで作成したものである。これをお読みいただければ、障害者スポーツの競技団体も、競技者も指導者も、健常者スポーツよりもさらに厳しい環境の中で、世界のトップを目指してチャレンジを続けている姿が浮かび出てくるであろう。

新しいスポーツ基本法とスポーツ基本計画によって、障害者も健常者と同じ環境でスポーツが実施できるための方向性が示され、スポーツ庁の創設によって両者の行政を一本化する計画も進められていると聞く。さらに 2020 年に東京でオリンピック、パラリンピックが開催されることも決まった。本報告書及び昨年に関する報告書が、スポーツ環境が大きく変わろうとしている中で、障害者スポーツの環境改善の方向性を考える上での資料として参考にしていただければと願っている。